

「東北大学による東日本大震災 1 年後報告会」を開催しました(2012/3/11)

本センターが所属する東北大学防災科学研究拠点の主催で「東北大学による東日本大震災 1 年後報告会—国際減災研究協力の体制構築に向けて—」をトラストシティ・カンファレンス仙台5階にて開催しました。この報告会は、地震発生から、1 ヶ月後、3 ヶ月後、6 ヶ月後（半年後）、と開催してきたもので、今回は 1 年後という大きな節目に当たる第4弾になります。報告会の冒頭では、本学の井上総長から開会挨拶にて、東北大学における「災害復興新生研究機構の創設」や「災害科学国際研究所の設置」に関する紹介がなされました。今回は、「基調講演」として政府の復興推進委員会委員長をつとめられている五百旗頭真 防衛大学校長から「東日本大震災からの復興と教訓の発信 ～我が国・世界の減災に向けて～」と題する講演を、「招待講演」として地震防災工学をリードされている東京工業大学の翠川三郎教授から「東日本大震災からの教訓 ～1 年で明らかになったこと～」と題する講演が行われました。その後、東北地方太平洋沖地震が発生した 14:46 に参加者全員で 1 分間の黙祷を行いました。後半の部は、4 月から発足する災害科学国際研究所に関連する各教員から計 7 件の研究報告が行われました。本センターからは、真野明教授が「2011 年大津波による海岸堤防被災の実態とメカニズム」と題して、今村文彦教授が「みちのく震録伝プロジェクト(東北大学による東日本大震災アーカイブプロジェクト)の概要と展開」と題して、報告しました。総合司会は、越村俊一准教授が担当し、当日は、一般、民間企業、官公庁、大学、報道機関等をあわせて約 300 名の方が来場され、講演内容を熱心に聴講されていました。また、本会には国内外の研究機関の VIP がゲストとして参加しました。

※<http://www.dcrc.tohoku.ac.jp/surveys/20110311/event.html> から DL できます。



会場の様子



井上総長



真野教授



今村教授

